相互扶助の「ゆいま～る」でつながる持続性のあるCSR活動を実践

沖縄県
株式会社サンシャイン
「サンシャインゆいま～る」事業

株式会社サンシャイン
代表取締役社長
石川和芳さん

「サンシャインゆいま～る」への登録団体を募集するポスター

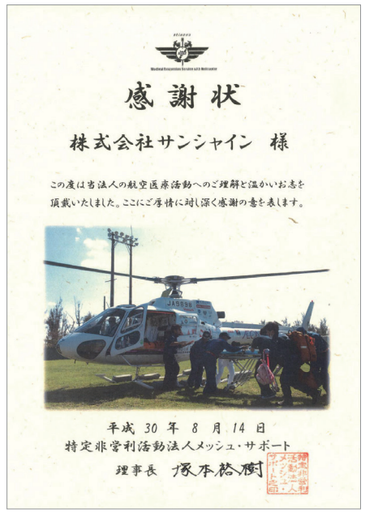
地域貢献に熱心に取り組むホールがお客様参加型社会貢献モデルを開始

沖縄県内でジャンボ・サンシャイングループとして、サンシャイン、ジャンボ、サンシャインネクスト、J・Parkの24ホールを展開する株式会社サンシャインは、「あなたの街のジャンボ・サンシャイングループ」をモットーに、社会貢献・地域貢献活動にも積極的に取り組んでいる。

毎年、おきなわマラソンや沖縄全島エイサー祭り等での協賛に加え、県内主要イベント会場にてゴミステーションを設置してのクリーンアップ活動などを行っている。また、2007年には県内の社会福祉法人・授産施設で就労する知的障がい者が製造するパンを継続的に購入し、ホール来店客に景品として提供する「知的障害者の社会就労支援」事業で組合員ホール部門最優秀賞を受賞している。

そのジャンボ・サンシャイングループが「愛する沖縄のために、共存する地域のために、大切な人のために。」を理念として2017年1月にスタートしたのが、お客様参加型地域密着社会貢献モデル「サンシャインゆいま～る」である。これは県内で活動している環境・福祉・地域・街づくり・スポーツ振興・青少年育成などのNPO法人、ボランティア団体、学校、福祉団体などに対し、お客様の投票により活動資金を寄付するもので、ジャンボ・サンシャイングループとお客様、地域がまさに「ゆいま～る（沖縄地方で助け合いを意味する言葉）」の精神でつながる持続性のあるCSR活動である。

2018年第1クールの寄付金を報告するポスター



寄付団体から贈られた感謝状

来店されたお客様の投票数に応じて地域のために活動する団体に寄付

具体的には、まず沖縄県内（離島含む）で活動する団体で、過去6ヵ月以上の活動実績があり、かつ今後もその活動を継続的に実行できる団体を募集し、応募があった団体を社内の選考会で登録団体として決定したうえで、沖縄全域で活動する団体はグループの全24ホールに、地域を限って活動している団体はその活動範囲内にあるホールにエントリーする。次いで、各ホールに専用の投票ボックスを設置し、来店されたお客様にカウンターで投票カードを配布し、お客様に任意で応援したい団体に投票を行ってもらい、それを1クール（半年間）ごとに集計。原資となる寄付金（1クール約500万円）を投票率に応じて案分し、各団体に寄贈するという仕組みとなっている。

2018年末時点で4クールが実施され、登録団体の総数は延べ227団体、総投票数は438万8540票、寄付額の累計額は1,936万円となっているが、例えば第4クール（2018年7～12月）では、最多得票となった航空機を活用した離島医療支援活動に取り組むNPO法人メッシュ・サポートに50万円、2位の沖縄県自閉症協会沖縄自閉症児者親の会まいわーるどに22万4,000円、3位の子どもフードバンク沖縄子どもカフェに17万9,000円が寄付された。

このプロジェクトを発足させるにあたり、サンシャインでは事務局を立ち上げ、1年がかりで計画を練り、県内で活動している60～70団体を訪問して趣旨を説明し、賛同した団体と協力体制を構築したうえで実施している。また、グループのホールや登録団体の施設へのポスターやパンフレットの掲出、クールごとに寄付報告や団体募集の折り込みチラシの投函、さらに登録団体の活動の様子を視察するなど、実施にあたっては主催者としての責任ある準備や細心の注意を払って臨んでいることもあり、行政や関係機関などからも高い評価を得ている。寄付をした団体からは礼状や感謝状、活動報告なども届けられ、良好な関係を築いているうえ、活動の継続を強く要望されているという。